

# 論文概要

○ 論文題目 女子大学生の性と生殖に関するヘルスリテラシーと次世代育成力  
および母親がそなえるジェネラティブイティとの関連

○ 指導教員

人間総合科学研究科看護科学専攻 岡山 久代 教授

(所属) 筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻(博士後期課程)

(氏名) \_\_\_\_\_ 菱谷 純子 \_\_\_\_\_

## 【目的】

女性の性成熟期は、10代後半から40代前半とされ、性腺ホルモンの活性化の影響を受ける特有の健康課題がある。妊娠前の性成熟期女性の健康は、胎児を育む身体として子どもに影響を与えるため、女子大学生においても、子どもを産み育てる周産期にむけた健康習慣の獲得および健康促進が重要となる。女子大学生の性と生殖に関する Health literacy (以下, HL) は、〔女性の健康に関する情報の選択とその活用〕〔月経に伴うセルフケア〕〔女性の身体に関する知識〕の3つの下位概念で構成される、女性特有の健康課題に関する情報を入手、理解、評価、活用する能力であり、この能力向上による健康促進が期待できる。

次世代を育成することに価値を見出すことは健康促進に向けた行動選択と関係し、女性の健康情報探索は、女性特有の産むことのできる身体への気づきにより促進される。このため、〔産み育てること〕〔自己成長〕〔知恵を伝承すること〕〔育児を協働すること〕に対する、肯定的自己評価の4つの下位概念で構成される次世代育成力は、性と生殖に関する HL に影響すると考えられた。また、母親は養育を介し、女子大学生の行動選択に影響を与えるため、〔産み育てることへの関心〕〔世代を継承していくという感覚〕〔世代継承に伴う自己成長感〕〔世代継承のための脱自己本位的態度〕の4つの下位概念で構成される、母親のそなえるジェネラティヴィティも女子大学生の性と生殖に関する HL に影響すると考えられた。加えて、健康に関する教育経験は、HL を高める要因であるため、HL について検討する際には、健康に関する教育を受ける経験が異なる専門分野の間での差異を考慮する必要があると考えられた。

以上の検討から本研究では、看護系および一般女子大学生とその母親を対象に、女子大学生の性と生殖に関する HL、次世代育成力および母親のそなえるジェネラティヴィティについて、各下位概念間の関連を明らかにする。

## 【対象と方法】

本研究は質問紙を用いた横断的研究である。研究協力者は、看護系の専門分野に所属する看護系学生とその母親、非医療系の専門分野に所属する一般学生とその母親とした。

調査協力依頼は、まず女子大学生に「女子大学生用と母親用の調査票セット」の配布および調査概要説明を行い、女子大学生用調査票への回答および母親用調査票配布について協力を依頼した。そのため、母親への調査票配布は、調査協力に同意した女子大学生から母親へ配布された。調査票の回収は、女子大学生とその母親、それぞれ別に行い、女子大学生は留め置き法または郵送法、母親は郵送法で行った。調査協力への同意は、調査票の回収により確認した。

女子大学生の調査内容は、女子大学生の性と生殖に関する HL の3下位概念に対応する性成熟期女性の HL 尺度の3下位尺度(河田, 畑下, 金城, 2014)、次世代育成力の4下位概念に対応する次世代育成力尺度の4下位尺度(菱谷, 落合, 池田, 高木, 2009)、女子大学生の専門分野および年

年齢などの属性とした。母親の調査内容は、母親のそなえるジェネラティビティの 4 下位概念に対応する多面的なジェネラティビティ尺度の 4 下位尺度(串崎, 2005)および年齢などの属性とした。

分析は、まず研究協力者である女子大学生とその母親の特性を確認する基本統計量の算出を行った。次に、女子大学生の HL、次世代育成力および母親のジェネラティビティの各下位尺度得点について、看護系群と一般群の有意差を独立したサンプルの  $t$  検定または Mann-Whitney の  $U$  検定により確認した。また、女子大学生の HL、次世代育成力および母親のジェネラティビティの関係性を看護系群と一般群それぞれ確認するために、各下位尺度得点間の相関係数 (Spearman) を算出した。さらに、女子大学生の HL に対する影響を明らかにするために、女子大学生の HL3 下位尺度得点を従属変数に、看護系と一般のダミー変数、次世代育成力の 4 下位尺度得点、母親のジェネラティビティの 4 下位尺度得点の合計 9 変数を独立変数とした重回帰分析(強制投入法)を行った。加えて、看護系群と一般群それぞれ、女子大学生の HL3 下位尺度得点を従属変数に、次世代育成力の 3 下位尺度得点、母親のジェネラティビティの 4 下位尺度得点の合計 8 変数を独立変数とした重回帰分析(強制投入法)を行った。分析には、SPSS 24.0 J for Windows を使用した。

なお、筑波大学医学医療系医の倫理審査委員会の承認 (1181) を得て、平成 29 年 6 月 1 日から 9 月末日に実施した。

## 【結果】

### 1. 有効回答率および研究協力者の属性

調査協力の得られた 7 大学の合計 1147 名の女子大学生に調査協力を依頼した。そのうち調査用紙につけた符号により、女子大学生と母親の母娘関係が確認でき、専門分野が確認できた 153 組(女子大学生 153 部、その母親 153 部)を有効回答とした(有効回答率 13.3%)。有効回答 153 組のうち、看護系群は 73 組(47.7%)、一般群は 80 組(52.3%)であった。

### 2. 看護系群と一般群の比較

#### 1) 女子大学生

HL の [女性の健康に関する情報の選択とその活用] 得点( $t=3.90$ ,  $df=151$ ,  $p<.001$ )、[女性の身体に関する知識]得点は、看護系群が一般群より高かった( $U=1947.5$ ,  $p<.001$ )。

次世代育成力の [産み育てること] 得点( $U=1817.5$ ,  $p<.001$ )、[自己成長]得点( $U=1980.0$ ,  $p<.001$ )、次世代育成力の [知恵を伝承すること] 得点は、看護系群が一般群より有意に高かった( $U=2186.0$ ,  $p=.007$ )。

#### 2) 母親

母親のジェネラティビティの 4 下位尺度得点は、看護群と一般群の有意差が示されなかった。

### 3. 概念間の関係性

#### 1) 女子大学生の HL と次世代育成力

看護系群は、女子大学生の HL3 下位尺度得点と次世代育成力の〔産み育てること〕〔自己成長〕〔知恵を伝承すること〕3 下位尺度得点間で、女子大学生の HL の〔月経に伴うセルフケア〕と次世代育成力の〔産み育てること〕の間を除き有意な中程度の相関関係 ( $r_s = .30 - .44$ ) が示された。一般群は女子大学生の HL3 下位尺度得点と次世代育成力の〔知恵を伝承すること〕との間に加え、一部の下位概念間で弱い有意な相関関係が示された ( $r_s = .23 - .35$ )。

## 2) 女子大学生の HL と母親のそなえるジェネラティビティ

看護系群は、女子大学生の HL の〔女性の身体に関する知識〕と母親の〔世代継承に伴う自己成長感〕との間に、一般群は、女子大学生の HL の〔女性の身体に関する知識〕および〔女性の健康に関する情報の選択とその活用〕と母親のジェネラティビティの〔世代継承に伴う自己成長感〕との間に弱い有意な相関 ( $r_s = .23 - .26$ ) が示された。

## 4. 女子大学生の HL への影響

専門分野「看護系」に比べ、「一般」は女子大学生の HL の〔女性の健康に関する情報の選択とその活用〕得点 ( $\beta = -.206, p = .008, \Delta R^2 = .214, p < .001$ ) および〔女性の身体に関する知識〕得点を低めることが示された ( $\beta = -.207, p = .008, \Delta R^2 = .205, p < .001$ )。また、一般群のみ、次世代育成力の〔知恵を伝承すること〕は、HL〔女性の健康に関する情報の選択とその活用〕得点 ( $\beta = .403, p = .018, \Delta R^2 = .131, p = .019$ )、HL〔女性の身体に関する知識〕得点を高める影響が示された ( $\beta = .535, p = .002, \Delta R^2 = .110, p = .036$ )。

### 【考察】

看護系学生は一般学生に比べて、月経や妊娠の仕組みなどの基本的な知識を持ち、健康に関する情報の選択とその活用能力が高かった。加えて、専門分野は女子大学生の HL に影響する要因であり、看護系の専門分野の講義や実習などの授業は女子大学生の HL を高める効果が期待され、これらを活用した HL 向上支援方略が示唆された。また、女子大学生の HL と次世代育成力は、多くの下位尺度得点間で相関関係が示され、女子大学生では、性と生殖に関する HL が次世代育の誕生を肯定し、次世代育成に自己成長などの肯定的な価値を見出す意識と共に高まることが示された。また、母親の世代継承に伴う自己成長感は女子大学生の女性の身体に関する知識との相関関係性が示され、母親が次世代育成などの社会活動に取り組み、自己成長を感じている状況は、女子大学生の女性の身体に関する知識の獲得を促進する可能性が推測された。

### 【結論】

専門分野の違いは、女子大学生の HL の影響要因であり、看護系の授業による健康に関する教育の提供は、女子大学生の HL を高めると推測された。また、女子大学生の次世代育成力を高めること、母親の世代継承に伴う自己成長感を高めることは、女子大学生の女性としての身体に関する知識向上に寄与する可能性が推測された。